

環境推進事業

地球温暖化の防止や限りあるエネルギー資源の利用等の問題を市民・事業者・行政が共有し、同じテーブルで対策を考えることで、それぞれの得意分野を活かした循環型社会を形成し、地域の継続的発展に資することを目的とする。

1. 環境基本計画推進事業

(1) 環境基本計画の中間見直し

計画期間（平成 23 年度から 32 年度まで）の中間年度となる平成 27 年度に、これまでの実績と今後の課題を踏まえた中間見直しを行った。見直しにあたっては、パブリックコメントの実施による市民意見の反映に努め、河内長野市環境審議会による計 4 回の会議を開催した。

中間見直し後の環境基本計画では、市民、市民団体、事業者等の理解と協力を得ながら、協働による環境事業や環境教育・環境学習に継続して取り組み、広く市民等に情報発信を行うことで、環境基本計画の施策の基盤となる「人・しくみづくり」や「まちづくり」をより具体的に進め、「エコのまち河内長野」の創造に向け、総合的かつ計画的に環境施策を推進する。

(2) 環境基本計画の推進

環境基本計画の目的達成のため、市民・市民団体・事業者・行政が課題を共有し、協働による解決が求められることから、市民が環境に触れ、環境問題について考える機会を設定した。

今年度は、自然豊かな本市の環境を損なうことなく次世代に継承していくことを目指し、地域で自然環境に関する活動ができる人材を育成するための講座を実施した。

①実施日：8月2日（日）

題 目：ふくろうと小鳥の巣箱づくり

内 容：NPO 法人森林ボランティアトモロス、NPO 法人日本バードレスキュー協会等で構成するふくろうの森プロジェクトとの協働により、野鳥に関する講演会と巣箱づくりを行った。

②実施日：11月7日（土）

題 目：河内長野市に生息するフクロウについて

内 容：特定非営利活動法人日本バードレスキュー協会理事長村濱史郎氏を招き、河内長野市内のフクロウの生息状況から一般的な野鳥の生態についてお話しいただいた。

2. バイオマスタウン推進事業

市バイオマスタウン構想に基づき、排出されるごみの削減や限りある資源の有効利用を推進し、地域社会の継続的発展を目指すことを目的として、木質・竹・廃食用油の利活用について検討を行った。

(1) 竹林整備体験事業

生活スタイルの変遷に伴い、森林が放置されるようになり、放置林において竹が生息域を拡大してきている。竹林を整備し、そこで切り出した竹を使って資源を循環させるため、竹パウダー有効利用試験を実施した。また、市民まつりなどのイベントで竹を使った箸づくり教室も開催した。

①竹パウダー有効利用試験

竹を有効利用することにより、手入れされた竹林を保全していくため、竹を粉碎して作った「竹パウダー」の土壌改良材としての利用の可能性を検討した。大阪府立大学と共同研究を行ってできた「タケコンポスト」に一部の土壌病原菌の発病を抑制する効果が見られ、大学・事業者と共同で特許を出願した。

②体験教室

竹林整備で出た竹を材料とした箸づくり教室を、市民まつり等のイベントで実施した。

(2) 廃棄物系バイオマスのエネルギー利用

ごみの減量と再利用を目的に廃食用油回収事業を行い、回収した油の一部は発電に利用。春に開催した長野公園でのイベント「奥河内ミーツサクラ」や冬の寺ヶ池公園イルミネーションイベントの出展ブースの電源として利用した。